

令和元年 8 月 30 日発行
公益財団法人
中国四国酪農大学校
電話 (0867) 66 - 3651
FAX (0867) 66 - 3652
E-mail info@rakudai.ac.jp
<http://www.rakudai.ac.jp>

学 園

だ よ り



55 期生（鬼女台展望休憩所にて）



巻頭の言葉

校長 山田義和



式が盛大に挙行され、新入生は晴れやかな顔に希望と少しの不安な表情を覗かせていました。

蒜山は夏真っ盛り。西の軽井沢と称されるこの地域は、自然美豊かな景勝地で多くの観光客が自然を求めてこの地へやってきました。観光のメインとなる三木が原の大部分は当大学の草地であり、まさに蒜山の自然美は酪農が醸し出していると言えます。

今年の学校行事ですが、3月25日に第53期生25名の卒業証書授与式が多くのご来賓のもと、盛大に挙行されました。今年には積雪が少なく、雪のない中での挙式となりました。続いて肌寒さが残る4月9日に、第55期生24名の入学

関係、非核化に向けた北朝鮮と米国の協議のゆくえ、畜産業界に大きな影響を与える自由貿易協定(TPP11やEUとのEPA)の発効と米中貿易摩擦に影響を受けるであろう日米二国間協議のゆくえ等、先行き不安材料が目白押しですが、当大学では昨年度に引き続き、明るい話題があります。

第一に3月に卒業した第53期生全員が、畜産業界に就業して就業してくれました。または就業してくれました。日本の畜産業界の活性化に寄与してくれるものと期待しています。

第二に、当大学校で初の生涯乳量10万kgを突破した牛がでたことです。

牛の名前は「カヤベケネデイローズサムソン」で、7産合計乳量106,435kgは県内10番目の成績となっています。8産分娩後の1〜3月の検定で、日量50kgを超える成績となっており、県内トップ5も夢ではないとのことです。(詳細はHOLSTEIN

通巻第603号(うちのガンバリ屋さん)を参照)

第三に生乳出荷先であるおかやま酪農業協同組合が実施している乳質改善事業で第一牧場が昨年に引き続き優秀表彰を受け、2年連続表彰となりました。第二牧場は残念ながら年36回の検査中、体細胞数が1回クリアできず11年連続表彰でとぎれてしまいました。またいちからの挑戦となります。

当大学校は、学生、酪農関係業界、消費者等にとって魅力のある学校づくりをコンセプトに担い手育成に力を入れていますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願ひします。

結びに、学生たちは、厳しい畜産情勢の中、卒業生の皆様の背中を見ながら夢の実現に向けて頑張っていますので、地域酪農の牽引役として引き続きご活躍されることを期待しています。



職員紹介

校長 山田義和
 副校長 木曾田 繁
 (総務課長兼務)

総務課

係 長 有富英美

教務課

教務課長 関 哲生

(第一牧場長兼務)

主任 高見奈々

技師 土井 歩

臨時職員 法花千恵美

調理技師 谷口育子

臨時職員 西田 都

臨時職員 池田淑子

第一牧場

臨時職員 樋口照夫

助手 児玉泰平

第二牧場

場 長 芦田草太

主任 村田崇浩

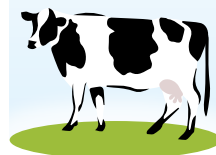
技師 山田祐季

技師 三宅 歩

農場(圃場)

場 長 長綱則之

酪大ニュース



○乳質最優秀賞受賞



6月25日に開催されたおこやま酪農業協同組合総会において、第一牧場が平成30年度の乳質最優秀賞を受賞しました。一昨年9月からの農場HACCP認証取得に向けた試行期間を経て昨年5月に認証されましたが、これを取り組むにあたって、日々、搾乳機器の点検や洗浄確認、牛の健康や機械・飼料等における異常の早期発見等に対応するマ

ニユアルを作成し、学生・職員とともに情報共有しながら徹底して実践した成果です。来年度から中国生乳販連の乳質評価基準が変わりますが、今後とも良質で安全な生乳生産が維持できるよう頑張ります。

○中国BWリザーブジュニアチャンピオン獲得



2019年第34回中国地区B&Wショウ 準ジュニアチャンピオン

カヤベ セイエラ ソロモン レテ

4月7日に岡山県で開催された第34回中国地区B&Wショウで、本校から出品した「カヤベ セイエラ ソロモン レテ号」(H29.7.24生まれ)

が、54期生の細野ちずなさんのリードのもと、リザーブジュニアチャンピオンを獲得しました。本牛は8月に初産を迎えます。来年には全共も控え、今後のショウでの活躍が楽しみです。

○第2牧場の牛群成績について

学生の実習農場として最適な環境を提供すべく、日々高い泌乳量・品質の生乳生産を達成する努力を続けています。昨年度は、一時期泌乳成績が振るわない時期もありましたが、経産牛一頭当たり、おおむね7500kg程度の乳量を達成しこの水準を維持していきたいと考えています。

一方で、乳質については、昨年度同様、体細胞数9万個/ml以下を目標と設定していますが、乳量増による管理の難しさからか、思うような成績が得られなくなってきました。指導方針、牛群管理方針の見直しを継続しています。そのような中で、学生には

目標を達成する努力や工夫を伝えていければと考えています。

○遺伝情報の有効利用

昨年度からジャージー子牛のゲノム検査を実施していますが、検査済みの個体が順調に増加しています。本年度は事業による補助があるのとこのとで、残りの未検査牛全頭の検査を予定しています。順調にいけば、牛群の情報のみならず生産する牛乳の機能性についても情報が得られる予定です。今後継続し、学生の指導に役立てていきたいと思えます。



北海道視察

2019年6月下旬に、北海道のジャージー農家を主体とした牛舎・牛群視察に参加しましたので、その内容についてお伝えいたします。

①(株)十勝加藤牧場(帯広市)

一部のジャージーで搾乳ロボットによる搾乳が行われていました。ジャージーはホルスタインに比べ乳房底面が低いいため、ロボット搾乳が可能な疑問でしたが、特に問題ないとのことでした。また、ジャージーは好奇心旺盛で、機械へのアクセス回数がホルスタインに比べて多く、ロボットに入らないで困るような問題は少ないとのことでした。新牛舎では新式のエアーカーテンによる自動換気システムを導入していましたが、上部換気による空気温の混合が、直接冷たい風を送るよりも有効とのことでした。

②(株)佐藤牧場(中標津町)

本州でも有名な育成預託牧場としても知られており、二棟の牛舎のうち一棟は預託牛のみを管理しているとのことでした。これらを管理するために150haの草地やバンカーサイロを利用して、ローサルレイジ、乾草、グラスサイレイジとコーンサイレイジを調製していました。

③(有)田中牧場(清水町)

牛舎の特徴は、対尻式牛舎で100頭の搾乳牛を管理する新牛舎と、70頭を管理する旧牛舎に分かれており、新牛舎にはTMRの自動攪拌給餌システムが導入されています。また、牛舎は天井があるタイプで、距離が長いため換気には気を使っているようでした。また、本牧場で飼育されている非常に有名な牛も間近で見ることができました。

④高田牧場(鹿追町)

搾乳牛舎としては1列30頭の対頭式を4列備えた牛舎



で、トンネル換気を採用しており、非常に強力な換気効果を発揮していました。ここではストッカーを組み合わせたTMR自動給餌方式を採用していましたが、対頭式の給餌通路は非常に狭く、最低限に抑えられているようでしたが、給餌通路の狭さに問題はなく、むしろ飼槽として採用したレジコンクリートの幅が広すぎて、前に出てしまう牛を引っ張り出すのが大変だったとのことでした。新築の乾乳牛舎では、フリーストールに併設されたアプレストパーラーでジャージーの搾乳も行っているとのことでした。

⑤藤井牧場(富良野市)

また、乾乳前期と後期は完全に隔離されており、前期のスペースには牛体温を低下させるためにソーカーシステムが導入されていました。しかし、ソーカーの使用により、牛床や通路が水分を含むとのことで、堆肥処理に問題が出る可能性が高いと思われました。

HACPを取得したメガファームで、非常に厳格な入场手順を用意していました。

まず、事務所に通されたのち、専用ルームで防護服・長靴の着用を求められ、視察後も手洗いなどをする徹底ぶりです。同じ認証農家として参考になりました。軽量素材で造られた牛舎の特徴は、フリーストールの敷料に砂を使用していたことで、クッション性が高く飛節の腫れなどもほとんど無く、非常に衛生的でした。一方で、砂の牛床は、糞を洗浄し砂を取り出さなければ堆肥散布できない難点があ

り、洗浄のために専用機械・大量の水の使用や、洗浄に伴い発生する汚水の浄化用湿地の整備(汚水の湿地通過により浄化するシステム)を施していました。しかし、敷料のクッション性確保は牛に大きな影響を及ぼす可能性が高く、砂を含めた様々な敷料について検討する価値があると思われました。



⑥石田牧場(剣淵町)

ホルスタインとジャージーを40頭ずつ管理する牛舎で、ジャージー牛群については、ゲノム検査でA2/A2の形質を持った個体をすべて把握

されていきました。フリーバーンであるため、クッション性は確保され四肢の状態は良好そうでした。また、乳房炎などの感染症については、旧フリーストール牛舎での飼育時と比較して減少し、牛床環境を維持できれば問題ないということでした。牛床管理は、2週間に1度の敷料追加、毎日の掘り起こし作業（機械）程度とのことでした。中央通路のゲートの仕組みは電動チェーンブロックを利用した秀逸な作りで、通路が衛生的に保たれていました。

⑦(有)デイリーサポート士別(士別市)

最後にお邪魔したのは農家同士が出資して設立されたTMRセンター(従業員20名、近隣1500頭分のTMR調製)で、農家戸数は今後減少する可能性に対しては、歯止めをかけることは困難との認識でしたが、規模拡大による頭数減少の抑制には意欲的に動いているとのことでした。



今回の視察を通して、圧倒的な草地規模と、それに対応するための先進的な機械の使用が都府県の酪農との相違点として目に付きましました。しかし、牛舎では、都府県同様に牛群を適切に管理するための工夫が凝らされており、特に給餌、換気、牛床管理に関しては参考になる仕組みや気づきが多かったため、今後の本校牧場運営に生かしたいと思えます。そして、実習牧場の質を高め、現場に求められる教育を学生に施していくことにより、酪農の人材を育成する本校の役割を果たしてまいります。

(第二牧場長 芹田)



職員異動のお知らせ

今年度より、尾上(旧姓田中)主任が岡山県真庭家畜保健所へ異動され、後任に三宅歩さんが第二牧場技師に着任しました。



三宅歩(みやけ あゆみ)と申します。出身は岡山市です。

昨年までの三年間は岡山県畜産研究所で酪農を担当していました。酪農大学校では現場のより牛に近い状況で、「教える」ということに難しさや面白さの両方を感じています。

中学校から走っていたので、体力とパワーには自信があります。また、自然豊かな蒜山を走るのも楽しんでいきます。

まだまだ未熟で学生と間違われていますが、学生と共に一から勉強するつもりで、将来の酪農家さんが育っていくためのお手伝いができればと思っています。よろしくお願ひ致します。

新職員があつた



土井歩(どい あゆむ)です。出身地は京都府ですが、今年の3月まで、沖繩にある琉球大学の学生として6年間、豚・鶏のエコフィードについて勉強・研究してました。ただし、乳牛については、飼養管理に関する知識や技術などを習得していなかったため、本校着任後から勉強させてもらっている状態です。牧場作業中に初めて目にする物事もあります。搾乳などの作業を通して少しずつ乳牛について理解し始めたのかと思います。

酪農業界の発展のため、本校が果たす酪農後継者の養成を担う一員になるべく精進いたします。よろしくお願ひします。

ちなみに、最近体重を測ると過去最大値を5キロ以上オーバーしていました。順調に日々成長しております。

第12回通常総会・懇親会の開催について

第12回同窓会通常総会及び懇親会を次のとおり計画しています。

懇親会については、還暦をむかえた卒業生(今回は11期〜13期の卒業生)を主に同窓会をかねて行うことになっていますが、そのほかの卒業生の参加も大歓迎です。盛会となるように多数のご参加をよろしくお願いいたします。

記

1. 日時及び場所

令和元年11月15日(金)

通常総会

午前11時00分〜

(公財)中国四国酪農大学校教室1

懇親会(同窓会)

午後12時00分〜

休暇村蒜山高原

2. 総会議題

(1)平成28年11月〜令和元年10月末日の事業報告及び

収支決算報告について

(2)令和元年11月〜令和4年10月末日の事業計画及び

収支予算について

(3)役員の改選について

(4)その他

3. 総会・懇親会の出席について

ご出席いただける場合は、9月30日(月)までに酪農大学校事務局へ連絡をお願いします。

なお、総会終了後、懇親会(同窓会)を計画しております。(会費5,000円)

ゆうちよ払込取扱票での入金をもって出席の受付とさせていただきます。

宿泊を希望される方は、ご自身ご予約の方をお願いいたします。(左記参照)

事務局(担当…木曾田・有富・法花)

TEL 0867-66-3651

FAX 0867-66-3652

住所 岡山県真庭市蒜山西茅部632番地

蒜山地区の民間宿泊施設のご案内

休暇村 蒜山高原

岡山県真庭市蒜山上福田1205-281

TEL 0867-66-2501

ホテル蒜山ヒルズ

岡山県真庭市蒜山富山根694-129

TEL 0867-66-7018

蒜山インターホテル

岡山県真庭市蒜山上徳山1026-1

TEL 0867-66-3136

寄附のお願い

酪農大学校は、酪農業の健全な発展に寄与するため、経営感覚と確かな技術を持った酪農の担い手養成を行うとともに、子供たちや学生、社会人を対象として酪農の役割や意義を理解していただくための普及啓発事業に取り組んでいます。

これらの事業に必要な資金は、主に付属牧場生産物の売払い収入を充てていますが、施設の老朽化の改修が必要になるなど、今後さらに一層の酪農教育の充実を図るためには寄附金が必要となっております。

酪農大学校は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当大学校への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

当大学校の教育活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

寄附は同封の振込用紙でお願いいたします。

寄附について、詳しくは酪農大学校ホームページ www.rakudai.ac.jp/ にも記載しておりますので参考にしてください。

CHUGOKU SHIKOKU COLLEGE OF DAIRY FARMING

2020
年度

学生募集

■推薦入試

受付期間:2019年10/1(火)~10/15(火)

試験日:2019年10/25(金) (本校会場)
10/28(月) (岡山会場)

■一般1次募集

受付期間:2019年11/12(火)~11/22(金)

試験日:2019年12/2(月)

■一般2次募集

受付期間:2020年2/1(土)~2/18(火)

試験日:2020年3/2(月)

牛たちとのふれあい、
仲間との楽しい時間。
大自然の中、一生に残る
2年間を過ごしてみませんか？



2019年 オープンキャンパス

第1回 7/22(月)~23(火)	第4回 8/1(木)~2(金)
第2回 7/25(木)~26(金)	第5回 8/5(月)~6(火)
第3回 7/29(月)~30(火)	第6回 8/19(月)~20(火)

2年間で酪農経営力を
身につけます！

酪農に必要な資格が
取得できます！

奨学金の制度も
あります！

公益財団法人

中国四国酪農大学校

SEARCH!

中国四国酪農大学校

GO!

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632 TEL (0867) 66-3651 FAX (0867) 66-3652